

北陸地方整備局
松本砂防事務所

記者発表・資料配付

発表

平成19年2月7日

日時

配布をもって解禁

平成18年度補正予算 記者発表資料 北陸地方整備局 松本砂防事務所

平成18年度の国土交通省関係補正予算については、平成18年の発生に係る台風、豪雨等による河川等の被害の早期復旧等の災害復旧費に加え、緊急に対応すべき事業の実施として一般公共事業費等予算が計上されたところです。

松本砂防事務所管内においては、災害復旧費、一般公共事業費等予算等として、約10.7億円が配分されました。これにより、災害に強い、地域の基盤づくりを目指します。

災害復旧費 約2.8億円（内、長野県1.4億円、新潟県1.4億円）

一般公共事業費等 約5.6億円（内、長野県4.9億円、新潟県0.7億円）

ゼロ国債 約2.3億円（内、長野県2.3億円）

計 約10.7億円（内、長野県8.6億円、新潟県2.1億円）

：ゼロ国債とは、公共事業の発注平準化を図り、円滑かつ効率的な執行を推進することを目的に、債務負担が次年度以降にわたるもので、当該年度中の国費の支出がゼロの国庫債務負担行為のこと。

問い合わせ先

国土交通省 北陸地方整備局 松本砂防事務所
電話（代）0263-33-1117
工務課長 横山 正

同時発表記者クラブ

松本市政記者クラブ、大町市記者クラブ、糸魚川市記者クラブ

主要事業の概要

・釜ヶ淵上流砂防えん堤の整備推進〔長野県松本市安曇上高地〕

平成14年9月に国の登録有形文化財に登録された釜ヶ淵上流砂防えん堤（昭和19年完成）は、平成18年の施設点検の結果、本堤・副堤等の天端張石の流出や副堤袖部の溪岸崩壊など、施設の老朽化が確認されたことから、補正予算の投入により損傷部の修復・補強を行い、施設の安全性確保と歴史的価値の維持を図ります。

・霞沢第2号砂防えん堤の整備推進〔長野県松本市安曇沢渡〕

松本市安曇沢渡地区を土石流などの土砂災害から守るため現在事業中である霞沢第2号砂防えん堤は、資材運搬路が前年度の豪雪で被災したため、補正予算の投入により運搬路の法面对策を行い、えん堤本体の早期着手を目指します。

・猫鼻床固工の整備推進〔長野県大町市平区〕

設置から25年経過した猫鼻床固工は、度重なる出水により多くの損傷が認められる他、平成18年7月の出水により副えん堤前面が大きく掘れたことから、補正予算の投入により、前庭保護工を設けて、床固工本体の被災を防ぎます。

・日向山床固工群の整備推進〔長野県大町市日向山〕・・・P3参照

日向山床固工群は、河床の不安定土砂の移動防止と固定、澁筋の安定を図ることを目的とした事業です。右岸側の整備に引き続き、補正予算（ゼロ国）の投入により、未整備となっている左岸側の早期完成を目指します。

・南股第4号砂防えん堤〔長野県北安曇郡白馬村〕

松川左支川南股入の最上流部に位置する「南股第4号砂防えん堤」は平成8年度に完成した鋼製格子枠砂防えん堤であるが、度重なる土石流の襲来を受けて格子枠が破損している。このため、補正予算（ゼロ国）の投入により、鋼製格子枠を製作して施設機能の早期回復を図ります。

・浦川筋砂防えん堤の整備推進〔長野県北安曇郡小谷村〕

稗田山崩壊地を抱える浦川は土砂生産が活発なため、浦川本川の砂防えん堤はいずれも水通部の摩耗損傷が著しい。このため、補正予算を投入し、摩耗部の補修を行ってえん堤の正常な機能の確保を図ります。

・葛葉床固工群の整備推進〔長野県北安曇郡小谷村・新潟県糸魚川市大所〕・・・P4参照

平成18年7月の出水により、被災した葛葉第2号床固工を復旧するため、護岸の災害復旧事業に加え、補正予算の投入により床固工の補強を行い、再度災害の防止を図ります。

日向山床固工群の整備推進

長野県大町市日向山地先

1. 事業の概要

1) 目的

籠川流域下流は、上流から流出した土砂が堆積し、扇状地を形成しています。そこには、地域社会や地域経済において重要な役割を果たしている大町温泉街や国道147号が位置しています。

現在も上流部からは継続的に土砂の生産や流出が起っており、籠川上流部より昭和41年から砂防施設を整備しているところです。

籠川下流部(籠川大橋より下流)においても、河床の不安定土砂の移動防止と固定、澁筋の安定を図るため床固工、帯工、護岸を計画し、平成15年より着手しています。

これらの施設(流路)整備により土砂移動を安定させ、大町市街地をはじめとする籠川下流域を保全するものです。

2) 全体計画

床固工：3基

帯工：1基

護岸工：約650m

2. 事業の経緯

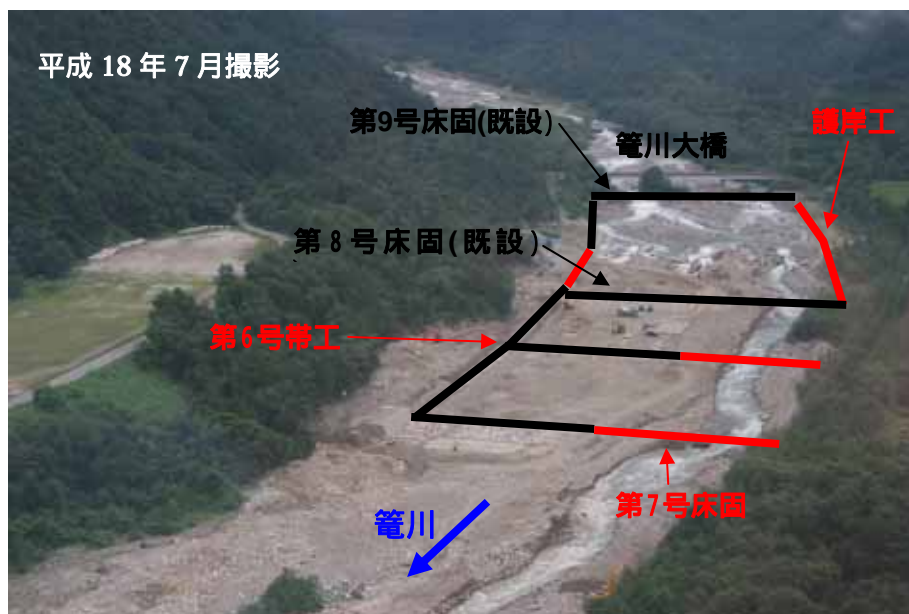
平成16年度 工事着手

平成17年度 第9号床固工1基 護岸L = 132m

平成18年度 第8号床固工1基、第7号床固工(右岸)、第6号帯工(右岸)
護岸L = 256m

3. 平成18年度補正予算「(ゼロ国)」の内容

平成17年度の出水及びその後の出水等により、大きく河岸浸食され、河床変動のあった右岸側(床固工、帯工、護岸)の整備を優先した結果、未整備となっている左岸側(第7号床固工、第6号帯工、護岸)を早期に行います。



葛葉床固工群の異常洗掘被害拡大防止

長野県北安曇郡小谷村・新潟県糸魚川市大所

1. 事業の概要

1) 目的

葛葉床固工群（葛葉第1号床固工、葛葉第2号床固工、葛葉第2号上流床固工）は設置から20年以上経過した設備で、未曾有の被害を出した「平成7年7月出水」も経験した経年損傷が確認されている箇所であります。今年度、姫川流域では、梅雨前線により7月15日～7月19日の間雨が降り続き、平岩雨量観測所では総雨量291mmを記録しました。継続した降雨の影響で姫川本川は異常な出水となり、葛葉第2号床固工水通し部分及び護床ブロックの洗掘損傷の拡大が確認されました。

損傷の拡大は異常洗掘によるものであるため、異常洗掘拡大を防止するため最下流部に帯工2基の設置、施設効果を復元するために損傷を受けた床固工と護床工の補修をおこないます。

2) 全体計画

床固工補修：3基

護床工補修：約10,000m³

帯工：2基

2. 事業の経緯

昭和51年度 葛葉第1号床固工工事着手

平成元年度 葛葉第2号上流床固工完成

平成7年度 「平成7年7月出水」により被災

平成17年度 梅雨前線による出水で損傷箇所増

3. 平成18年度補正予算の内容

今後の出水によりさらなる洗掘損傷を受けることを防止するため、葛葉第2号床固工護床工の下流に帯工1基を設置します。

